

ゴミ問題

2010-6-22 8awk1116 前川 昂也

処分場に廃棄されるゴミ

・どうすれば減らせるか？



リターナブル容器


- ・ワンウェイ容器よりも環境負荷が少ない。
- ・再利用する時に水を利用する為、水質汚染を起こす
- ・再利用を目的としているので丈夫な素材と構造が必要なので重くなり、容積も大きくなる。
- ↓
- つまり生産や流通での内容物の単価あたりのエネルギー消費量がワンウェイ容器よりも大きくなる。

↓

- ・使用回数が2～3回程度ではワンウェイと変わらない。
- ・しかし再利用するほどエネルギーの消費、大気汚染などの環境負荷を抑えることができる。

つまり……
飲料容器のワンウェイ化が進んでいる現在は環境負荷が大きくなったと言える。

原因は何か？ ～ワンウェイ化



飲料容器
・使い捨て → ワンウェイ容器
・通いビンなど → リターナブル容器

アルミ缶のように素材として回収可能なものもある。

直接の原因……高度経済成長の影響もありワンウェイ容器の価格低下

97年 容器包装廃棄物

容積 → 59% 重量 → 24%

↓

飲料容器 → 8% 重量 → 6%

ペットボトルの回収率は上がっているが、使用率がそれ以上に増えているので廃棄量は増えている。

キリンビールのHPIによれば、97年、日本中に年間約58億本ものビール瓶が出回った。

環境白書各論95年版によれば
一般廃棄の残余容量 → 1億4200万㎡
もしビール瓶がワンウェイ容器だったとして、廃棄された場合これの12%相当にあたり、つまり8年余りで満杯になってしまう。

実際は20回ほど使用されるのでこれの20分の1であり、それほどリターナブル瓶が環境負荷に貢献しているのがわかる。

飲料容器の増加とワンウェイ化は大気汚染などに加えて、廃棄処理場の枯渇という深刻な問題の一因でもある。

これからはリターナブル瓶の使用を心がけるのが良い。

1997年 一般廃棄の減量と再生資源の利用を図るため、容器包装リサイクル法が施行

- ① スティール、アルミ、飲料用紙パック
- ② 無色ガラス瓶、茶色ガラス瓶、その他ガラス瓶
- ③ 段ボール、その他紙製容器包装、その他プラスチック容器包装


しかし、一律リサイクルでは混乱するだけで達成不可能

廃棄処分場への廃棄量を減らし資源を再利用するには……

素材の性質の違いに注目し素材ごとにリサイクルするか否かを考えること。

例えば……石油からできてくるペットボトル、植物繊維で作る紙パックなどはリサイクルせず、そのまま完全に焼却して炭酸ガスと水蒸気にして大気に放出してその熱を利用して発電の方が合理的である。

アルミの再生も合理的ではない。



参考
<http://env01.cool.ne.jp/index02.htm>